

# 第108回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

## 連 結 注 記 表 個 別 注 記 表

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

## 宇部興産株式会社

当社は、第108回定時株主総会招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結注記表および個別注記表につきましては、法令および定款第16条の規定に基づき、当行ホームページ (<http://www.ube.co.jp>) に掲載することにより株主の皆さまに提供しております。

# 連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

## 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 65社

主要な連結子会社の名称：宇部興産機械(株)、宇部マテリアルズ(株)、宇部アンモニア工業(有)、宇部エクシモ(株)、ウベ・マシナリー、インコーポレーテッド、ウベ・アドバンスド・マテリアルズ、インコーポレーテッド、ウベ・ケミカル・ヨーロッパ、エスエー、ウベ・エンジニアリング・プラスチック、エスエー、ウベ・ケミカルズ・アジア、パブリック・カンパニー・リミテッド、タイ・シンセティック・ラバーズ、カンパニー・リミテッド、ウベ・ファイン・ケミカルズ・アジア、カンパニー・リミテッド、宇部日東化成(無錫)有限公司

(注)宇部エクシモ(株)は、平成25年10月1日付けで宇部日東化成(株)から名称変更した。

主要な非連結子会社の名称：宇部日新石灰(株)、中四国宇部コンクリート工業(株)

なお、非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため連結の範囲から除外している。

## 2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社の数 12社

主要な持分法を適用した非連結子会社の名称：宇部日新石灰(株)、中四国宇部コンクリート工業(株)

持分法を適用した関連会社の数 12社

主要な持分法を適用した関連会社の名称：宇部三菱セメント(株)、ユーエムジー・エービーエス(株)

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社

主要な持分法を適用しない非連結子会社の名称：大成工業(株)

主要な持分法を適用しない関連会社の名称：山機運輸(株)

なお、持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外している。

## 3. 連結の範囲の変更

宇部日東化成(無錫)有限公司は、重要性の観点から、当期より連結の範囲に含めた。

連結子会社であった宇部興産ホイール(株)及び宇部貿易(株)は、当期中に清算終了したため、連結の範囲から除外した。

連結子会社であった宇部テクノエンジ(株)については、当期中に連結子会社である宇部興産機械(株)に吸収合併された。

## 4. 持分法の適用の範囲の変更

持分法を適用していたフクセイ・ベンダーサービス(株)については、当期中に株式売却により関連会社でなくなったため、持分法の適用から除外した。

5. 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更  
従来、決算日が12月31日である連結子会社については、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っていたが、ウベ・ケミカル・ヨーロッパ、エスエーほか10社については連結財務情報のより適正な開示を図るため、当期より決算日を3月31日に変更している。  
この決算期変更に伴い、当期は、平成25年4月1日から平成26年3月31日までの12ヶ月間を連結している。なお、平成25年1月1日から平成25年3月31日までの3ヶ月の損益については、連結株主資本等変動計算書の「関係会社の報告期間変更に伴う増減」に表示している。
6. 会計処理基準に関する事項
- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法  
満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）  
その他有価証券：時価のあるもの  
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）  
時価のないもの  
移動平均法による原価法  
但し、匿名組合出資金については、当該匿名組合の直近決算期における純資産の当社持分割合で評価している。
- (2) デリバティブ等の評価基準及び評価方法  
：時価法
- (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法  
主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定している。
- (4) 減価償却資産の減価償却の方法  
有形固定資産：主として定額法を採用しているが、一部の連結子会社は定率法を採用している（リース資産を除く）。但し、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法を採用している。  
無形固定資産：鉱業権については生産高比例法、その他については定額法を採用している。（リース資産を除く）なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用している。
- リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引  
：リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。
- (5) 繰延資産の処理方法  
社債発行費については、繰延資産に計上し、社債償還期限で均等償却している。

(6) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金：債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見積額を計上するほか、個別に回収不能を見積った債権を除いた一般債権に対して、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率を乗じた額を計上している。

賞与引当金：従業員及び執行役員に支給する賞与に充てるため、支給見込額を計上している。

役員賞与引当金：当社及び一部の連結子会社は役員賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上している。

受注損失引当金：受注契約に係る将来の損失に備えるため、損失が発生する可能性が高いと見込まれ、かつ、当該損失額を合理的に見積ることが可能な受注契約について、損失見込額を計上している。

役員退職慰労引当金：連結子会社は役員の退職慰労金に充てるため、役員退職慰労金支給内規に基づき計算した期末要支給額を計上している。

特別修繕引当金：船舶の定期検査費用等の支出に備えるため、見積額を計上している。

事業損失引当金：当社及び連結子会社が営む事業に関連して今後発生が見込まれる損失について、合理的に見積り可能な金額を計上している。

(7) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっている。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10～14年）による定率法により、翌期から費用処理している。なお、一部の連結子会社は定額法を採用している。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5～14年）による定額法により費用処理している。なお、一部の連結子会社は定率法を採用している。

③ その他

多くの連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用している。

(8) ヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

主として繰延ヘッジ処理を採用している。金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用している。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

<u>ヘッジ手段</u>	<u>ヘッジ対象</u>
金利スワップ	借入金
金利オプション	借入金
為替予約	外貨建債権・債務及び外貨建予定取引
通貨オプション	外貨建債権・債務及び外貨建予定取引
通貨スワップ	外貨建借入金
石炭スワップ	市場連動価格で購入する石炭

③ ヘッジ方針

当社及び連結子会社は内部規定である「金融市場リスク管理規程」及び「年度リスク管理要領」等に基づき、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジしている。

当社が行う石炭ヘッジ取引については、「石炭ヘッジ取引リスク管理規程」及び「石炭ヘッジ取引リスク管理要領」に基づき、価格変動リスクをヘッジしている。

④ ヘッジの有効性評価の方法

それぞれのヘッジ手段とヘッジ対象が対応していることを確認することにより、有効性を評価している。但し、特例処理によった金利スワップについては有効性評価を省略している。

(9) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、その効果の発現する期間に応じて償却することとし、原則として20年間の定額法により償却している。

(10) 消費税等の処理の方法

税抜方式によっている。

**(会計方針の変更)**

当期末より、「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を「退職給付に係る資産」及び「退職給付に係る負債」として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用及び未認識会計基準変更時差異を「退職給付に係る資産」及び「退職給付に係る負債」に計上した。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当期末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の「退職給付に係る調整累計額」に加減している。

これにより当期末において、「退職給付に係る資産」が4,872百万円、「退職給付に係る負債」が7,019百万円計上されるとともに、その他の包括利益累計額が3,572百万円減少している。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務  
担保に供している資産  
有・無形固定資産 108,062百万円  
担保に係る債務  
短期借入金 1,980百万円  
長期借入金 6,777百万円  
(一年以内返済額を含む)
  
2. 有形固定資産の減価償却累計額 704,362百万円  
なお、減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれている。
  
3. 保証債務  
債務保証 1,958百万円  
保証予約 96百万円  

---

計 2,054百万円
  
4. 受取手形割引高 642百万円

(連結損益計算書に関する注記)

1. 特別利益(その他)の内訳  
投資有価証券売却益 8百万円  
受取補償金 43百万円  
補助金収入 47百万円
  
2. 特別損失(その他)の内訳  
投資有価証券売却損 5百万円  
減損損失 152百万円  
投資有価証券評価損 30百万円  
関連事業損失 41百万円

### (連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当期末の発行済株式の種類及び総数  
普通株式 1,062,001,076株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	5,035	5.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

平成26年6月27日開催の定時株主総会において、次のとおり付議する。

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 配当の原資    | 利益剰余金      |
| ② 配当金の総額   | 5,299百万円   |
| ③ 1株当たり配当額 | 5.00円      |
| ④ 基準日      | 平成26年3月31日 |
| ⑤ 効力発生日    | 平成26年6月30日 |

3. 当期末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数

普通株式 772,000株

### (金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社及び連結子会社は、資金運用については元本毀損リスクの少ない短期的な預金等で行い、銀行等金融機関からの借入やコマーシャル・ペーパー、社債及び新株予約権付社債の発行等により資金調達を行っている。

受取手形及び売掛金に係る信用リスクは、「売掛金回収規程」及び「販売基本規程」等に従いリスクの軽減を図っている。また、投資有価証券は主に株式であり、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握している。

短期借入金、コマーシャル・ペーパーは主に営業取引に係る資金調達であり、社債、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達である。変動金利支払の借入金は、一部はデリバティブ取引（金利スワップ取引及び金利オプション取引）を行いリスクヘッジしている。外貨で調達する借入金はデリバティブ取引（通貨スワップ取引）を行いリスクヘッジしている。

なお、デリバティブ取引は内部管理規程に従い、リスクを回避することを目的とし、投機的な取引は行わないとしている。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていない（注2）を参照。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額 (*1)	時価 (*1)	差額
(1) 現金及び預金	30,560	30,560	—
(2) 受取手形及び売掛金	153,160	153,160	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	10,960	10,960	—
(4) 支払手形及び買掛金	(89,229)	(89,229)	—
(5) 短期借入金 (*2)	(60,360)	(60,360)	—
(6) コマーシャル・ペーパー	(11,999)	(11,999)	—
(7) 未払金	(32,593)	(32,593)	—
(8) 未払法人税等	(3,285)	(3,285)	—
(9) 社債 (*3)	(40,090)	(40,511)	421
(10) 長期借入金 (*2)	(131,952)	(133,032)	1,080
(11) デリバティブ取引 (*4)	8	8	—

(\*1) 負債に計上されているものについては、( ) で示している。

(\*2) 1年内返済予定の長期借入金（連結貸借対照表計上額35,134百万円）は、(10) 長期借入金に含めている。

(\*3) 1年内償還予定の社債（連結貸借対照表計上額20百万円）は、(9) 社債に含めている。

(\*4) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示している。

（注1） 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブに関する事項

(1) 現金及び預金、並びに (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっている。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっている。

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 短期借入金、(6) コマーシャル・ペーパー、(7) 未払金、並びに

(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっている。



(9) 社債

これらの時価について、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額を当該社債残存期間に応じた新規に同様の社債を発行した場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定している。

(10) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、残存期間で新規に借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定している。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記(11)参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定している。

(11) デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載している（上記(10)参照）。

(注2) 非上場株式等（連結貸借対照表計上額34,741百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めていない。

(賃貸等不動産に関する注記)

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の連結子会社では、山口県その他の地域において、遊休不動産及び賃貸用不動産を所有している。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額	時 価
19,557	46,164

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額である。

(注2) 当期末の時価は、主要な物件については外部の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づいて自社で算定した金額である。

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額	228円51銭
1株当たり当期純利益	12円16銭

## (その他の注記)

### 1. 企業結合等関係

#### 共通支配下の取引等

##### (株式交換による宇部マテリアルズ株式会社の完全子会社化)

当社は、平成25年5月10日開催の取締役会において、当社を株式交換完全親会社とし、連結子会社である宇部マテリアルズ株式会社（以下、「宇部マテリアルズ」という。）を株式交換完全子会社とする株式交換（以下、「本株式交換」という。）を行うことを決議し、同日付で株式交換契約を締結した。本株式交換契約に基づき、平成25年8月1日に株式交換を実施し、宇部マテリアルズを完全子会社とした。それに伴い、宇部マテリアルズは平成25年7月29日に上場廃止（最終売買日は平成25年7月26日）となっている。

#### (1) 企業結合の概要

- ① 結合当事企業の名称  
宇部マテリアルズ株式会社
- ② 結合当事企業の事業内容  
マグネシアクリンカー、生石灰、消石灰、ファインマテリアル製品などの製造・販売
- ③ 企業結合日  
平成25年8月1日
- ④ 企業結合の法的形式  
当社を完全親会社とし、宇部マテリアルズを完全子会社とする株式交換
- ⑤ 結合後企業の名称  
変更なし。
- ⑥ 取引の目的を含む取引の概要

宇部マテリアルズの主力事業であるカルシア・マグネシア事業では、主要ユーザーである鉄鋼業界や化学業界において中長期的に需要減少が見込まれ、加えて、国内で宇部マテリアルズのみが製造するマグネシアクリンカーが今後、海外品との競争にさらされるなど厳しい事業環境が予想される。こうした状況に対処するため、コストダウンや効率化の推進、新たなビジネスチャンスを活かした拡販などが課題となっている。また、新たな成長の柱と捉えているファイン事業では、技術力が評価され製品の採用が進んでいるものの、エレクトロニクス関連分野を中心として事業環境の変化が早く、技術革新と新製品の開発、用途開発のスピードアップが要求されている。こうした状況の中、当社と宇部マテリアルズは、それぞれで企業価値の向上を目的とした諸施策を進めてきたが、当社が宇部マテリアルズを完全子会社化し、両社が一体となった運営を行うことにより、事業戦略の一元化と意思決定のスピードアップを図り、宇部マテリアルズが当社とのシナジー最大化による企業価値向上を追求することが、ひいてはUBEグループの企業価値の向上に資することになるとの結論に至った。今回の当社による宇部マテリアルズの完全子会社化後は、当社は宇部マテリアルズの事業の特性や、運営・体制の優れた点を十分に活かした経営に留意しつつ、様々な分野におけるグループ連携強化と経営資源の有効活用を推し進め、両社はより一層の成長を目指し更なる事業価値の向上に取り組んでいく。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引等として処理を行っている。

(3) 追加取得した子会社株式の取得原価及びその内訳

取得の対価	当社の普通株式	9,922百万円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	86百万円
取得原価		10,008百万円

(4) 子会社株式の追加取得に関する事項

① 株式の種類別の交換比率

宇部マテリアルズの普通株式1株に対し、当社の普通株式1.4株を割当交付している。

② 株式交換比率の算定方法

本株式交換の株式交換比率については、その公正性・妥当性を確保するため、当社は野村證券株式会社、宇部マテリアルズは有限責任監査法人トーマツにそれぞれ株式交換比率の算定を依頼し、その算定結果を参考に両社で協議を重ねた結果、上記比率を決定した。

③ 交付株式数

当社は、本株式交換により新たに普通株式52,836,070株を交付した。

(5) 負ののれん発生益の金額、発生原因

① 負ののれん発生益の金額

2,841百万円

② 発生原因

結合当事企業に係る当社持分増加額と取得原価との差額によるものである。

2. 記載金額は百万円未満を四捨五入して表示している。

## 個 別 注 記 表

### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法  
満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）  
子会社株式及び関連会社株式：移動平均法による原価法  
その他有価証券：時価のあるもの  
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）  
時価のないもの  
移動平均法による原価法  
但し、匿名組合出資金については、当該匿名組合の直近決算期における純資産の当社持分割合で評価している。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法  
：時価法
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法  
商品及び製品：原価法（総平均法）  
仕掛品：原価法（総平均法、個別法）  
原材料及び貯蔵品：原価法（総平均法）  
貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法
4. 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産（リース資産を除く）  
建物、構築物、機械及び装置：定額法  
その他：定率法  
無形固定資産（リース資産を除く）  
ソフトウェア：社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法  
その他  
鉱業権：生産高比例法  
その他：定額法  
リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引  
：リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法
5. 繰延資産の処理方法  
社債発行費については、繰延資産に計上し、社債償還期限で均等償却している。
6. 引当金の計上基準  
貸倒引当金：債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見積額を計上するほか、個別に回収不能を見積った債権を除いた一般債権に対して、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率を乗じた額を計上している。

投資損失引当金：関係会社への投資に対する損失に備えるため、その資産内容等を検討して必要と認められる額を計上している。なお、当引当金1,817百万円は、貸借対照表上、関係会社株式から直接控除している。

賞与引当金：従業員及び執行役員に支給する賞与に充てるため、支給見込額を計上している。

役員賞与引当金：役員賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上している。

退職給付引当金：従業員の退職給付に充てるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により費用処理している。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定率法により、翌期から費用処理している。

なお、当期末においては、年金資産の額が、退職給付債務に未認識過去勤務費用、及び未認識数理計算上の差異を加減した額を超過しているため、当該超過額は前払年金費用として投資その他の資産に計上している。

関連事業損失引当金：関係会社の財政状態の悪化に伴う損失に備えるため、投資額を超えて当社が負担することとなる損失見込額及び事業の整理に関連して発生する損失見込額を計上している。

## 7. ヘッジ会計の方法

### (1) ヘッジ会計の方法

主として繰延ヘッジ処理を採用している。金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用している。

### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

<u>ヘッジ手段</u>	<u>ヘッジ対象</u>
金利スワップ	借入金
金利オプション	借入金
為替予約	外貨建債権・債務及び外貨建予定取引
通貨オプション	外貨建債権・債務及び外貨建予定取引
通貨スワップ	外貨建借入金
石炭スワップ	市場連動価格で購入する石炭

### (3) ヘッジ方針

当社の内部規定である「金融市場リスク管理規程」、「年度リスク管理要領」及び「石炭ヘッジ取引リスク管理規程」、「石炭ヘッジ取引リスク管理要領」に基づき、金利変動リスク、為替変動リスク及び価格変動リスクをヘッジしている。

### (4) ヘッジの有効性評価の方法

それぞれのヘッジ手段とヘッジ対象が対応していることを確認することにより、有効性を評価している。但し、特例処理によった金利スワップについては有効性評価を省略している。

## 8. 消費税等の処理の方法

税抜方式によっている。

(貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産

建	物	6,939百万円
構	築	24,968百万円
機	械	44,113百万円
及	び	
装	置	
工	具、器具	16百万円
及	び	
備	品	
土	地	14,853百万円
鉱	業	180百万円
権		
計		91,071百万円

担保に係る債務

長	期	借	入	金	5,081百万円						
(	1	年	以	内	返	済	額	を	含	む	)

2. 有形固定資産の減価償却累計額 421,877百万円

なお、減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれている。

3. 保証債務

下記の会社等の銀行借入等に対し保証及び保証類似行為を行っている。

(債務保証)

ウベ・ケミカルズ・アジア、	601百万円 (4,800千US\$ 他)
パブリック・カンパニー・リミテッド	
(株)関東宇部ホールディングス	155百万円
その他 8件	5,605百万円 (うち外貨建29,500千US\$ 他)
計	6,362百万円

(保証予約)

(株)関東宇部ホールディングス	1,817百万円
その他 6件	2,656百万円
計	4,474百万円

4. 関係会社に対する金銭債権・債務

関係会社に対する短期金銭債権	46,446百万円
関係会社に対する長期金銭債権	0百万円
関係会社に対する短期金銭債務	39,641百万円
関係会社に対する長期金銭債務	103百万円

(損益計算書に関する注記)

1. 関係会社との取引	
関係会社に対する売上高	124,893百万円
関係会社からの仕入高	69,028百万円
関係会社との営業取引以外の取引高	5,747百万円
2. 特別損失(その他)の内訳	
関係会社株式評価損	27百万円
減損損失	44百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式の種類及び株式数

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	2,147,163株	77,392株	121,003株	2,103,552株
合計	2,147,163株	77,392株	121,003株	2,103,552株

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加77,392株は、単元未満株式の買取請求に伴う取得による。  
普通株式の自己株式の株式数の減少121,003株は、単元未満株式の買取請求に伴う売却15,003株及び新株予約権の行使に伴う減少106,000株による。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

投資損失引当金繰入額否認	643百万円
賞与引当金繰入額否認	1,228百万円
有姿除却解体費用否認	3,573百万円
株式評価損否認	1,351百万円
貸倒引当金繰入額否認	2,348百万円
固定資産減損損失額否認	1,931百万円
その他の他	6,735百万円
繰延税金資産小計	17,809百万円
評価性引当額	(一) 4,786百万円
繰延税金資産合計	13,023百万円
(繰延税金負債)	
その他有価証券評価差額金	(一) 1,428百万円
固定資産圧縮積立金	(一) 3,801百万円
合併受入固定資産評価益	(一) 1,131百万円
前払年金費用	(一) 2,871百万円
その他の他	(一) 300百万円
繰延税金負債合計	(一) 9,531百万円
繰延税金資産の純額	3,492百万円



(リースにより使用する固定資産に関する注記)

リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)
機 械 及 び 装 置	1,380	977	402

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い  
ため、支払利子込み法により算定している。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額

1 年 内 138百万円

1 年 超 264百万円

合 計 402百万円

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に  
占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定している。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

支払リース料 138百万円

減価償却費相当額 138百万円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はない。

## (関連当事者との取引に関する注記)

## 子会社等

属性	会社名	住所	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員兼任等	事業上の関係				
子会社	ウベボード(株)	山口県宇部市	490	ボード、0Aフロアの製造・販売および責任施工	(所有)直接100%	兼任1人(うち当社従業員1人)	宇部三菱セメント(株)から原料のセメントを供給している	運転資金の貸付(注1)	—	短期貸付金	7,250
子会社	宇部興産機械(株)	山口県宇部市	6,700	一般産業用機械、橋梁の製造、販売、据付、アフターサービス	(所有)直接100%	兼任5人(うち当社従業員3人)	当社グループの機械事業を統括	余剰資金の預り(注2)	—	預り金	3,889
								配当金の受取(注3)	1,122	—	—
子会社	ウベ・ケミカルズ・アジア、パブリック・カンパニー・リミテッド	タイバンコック市	(百万パーツ)10,739	ナイロン樹脂、ナイロンコンパウンド、カプロラクタム、硫酸の製造・販売	(所有)直接73.77% 間接0.04%	兼任4人(うち当社従業員4人) 出向1人	アジアにおける当社グループの化学事業を推進	配当金の受取(注3)	999	—	—
子会社	宇部シーアンドエー(株)	山口県宇部市	490	豪州炭等の販売	(所有)直接75.5%	兼任5人(うち当社従業員5人)	当社輸入炭の販売	輸入炭の販売(注4)	30,919	売掛金	5,454
関連会社	宇部三菱セメント(株)	東京都千代田区	8,000	セメント、セメント系固化粧材、スラグ粉の販売	(所有)直接50.0%	兼任3人(うち当社従業員2人) 出向5人	当社セメント製品の販売	セメント製品の販売(注5)	37,672	売掛金	13,621

上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれている。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) ウベボード(株)に対する短期貸付金については、3ヶ月日本円TIBORに一定のスプレッドを加算した利息を徴収している。
- (注2) グループ内の効率的な資金運用のため、宇部興産機械(株)の保有する余剰資金を預っており、3ヶ月日本円TIBOR相当の利息を支払っている。なお反復的に取引が行われていることから取引金額の記載は行っていない。
- (注3) 宇部興産機械(株)、ウベ・ケミカルズ・アジア、パブリック・カンパニー・リミテッドは、当社のグループ会社配当方針に基づき配当している。

(注4) 宇部シーアンドエー㈱は輸入炭を全量当社から仕入れており、販売価格については市況等を基に決定している。

(注5) 宇部三菱セメント㈱へのセメント及びセメント系固化材の販売については、同社の販売価格から同社の販売経費、物流経費等を差し引いた価格で行っている。

**(1株当たり情報に関する注記)**

1株当たり純資産額	140円28銭
1株当たり当期純利益	6円32銭

**(その他の注記)**

1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。